令和６年度秋季特別展

子規の名言 ―病床でみつめた日々―

令和６年10月12日(土)～11月25日(月)

休館日：火曜日

開館時間：午前９時～午後６時（展示室入場は午後５時30分まで）

※11月からは午後５時まで（展示室入場は午後４時30分まで）

会場：松山市立子規記念博物館　３階特別展示室

観覧料：個人２００円、団体１６０円、65歳以上１００円、高校生以下無料

造化の秘密が
段々分って来るような
気がする。

≪ギャラリートーク≫

令和６年10月12日（土）・11月９日（土）
ともに午前10時30分から50分程度
会場：３階特別展示室 ※聴講には観覧券が必要

≪学芸員による関連講座≫

演題：「子規のことばを味わう」
11月24日（日）午前10時30分～正午まで
会場：１階視聴覚室 ※入場無料

松山市立子規記念博物館
TEL 089-931-5566　〒790-0857　松山市道後公園 1-30　https://shiki-museum.com

令和６年度秋季特別展

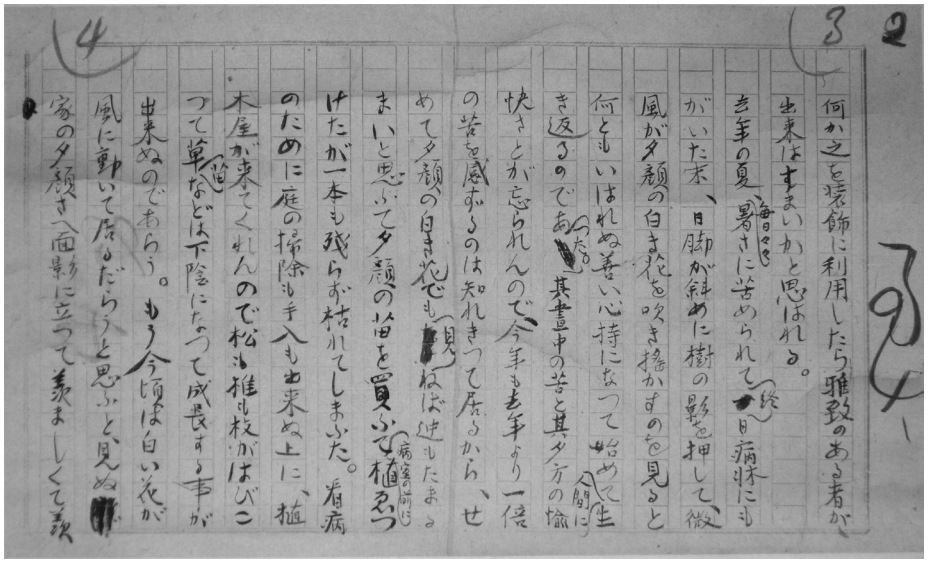
子規の名言 －病床でみつめた日々－

１８８９（明治22）年、22歳で喀血した正岡子規は、病臥を余儀なくされた１８９６（明治29）年以降の７年間、俳句・短歌・文章・絵画と新しい表現の世界に最期まで挑み続けました。

子規はその最晩年の１９０２（明治35）年、新聞『日本』に連載中の随筆「病牀六尺」で「悟りということはいかなる場合にも平気で死ぬることかと思っていたのは間違いで、悟りということはいかなる場合でも平気で生きているということであった。」と表しました。病とどのように闘い、どう生きるのか。子規は、自らの苦しみさえも客観的にとらえ、病のために人生をあきらめるのではなく、文学上の革新に挑戦し続けるという境地に至っています。

本特別展では、苦しみとともにその人生を明るく、ユーモアをもって生き抜いた人間・正岡子規の数々の名言を紹介します。現代を生きる私たちも、かつてない感染症、自然災害などの脅威と隣り合わせの日々を過ごしています。私たちは何を大切にし、どう生きていけば良いのでしょうか。いま、子規が投げかけることばに、あなたも耳を傾けてみませんか。

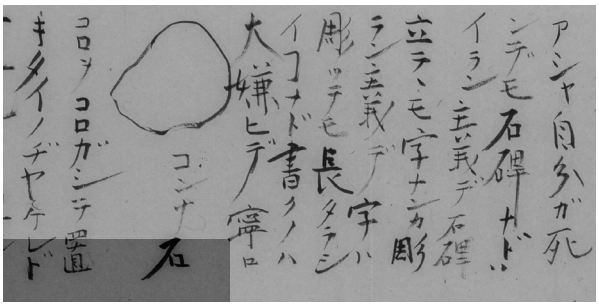
子規、お気に入りの写真（明治33年４月５日）



微風が夕顔の白き花を吹き揺がすのを見ると……人間に生き返る

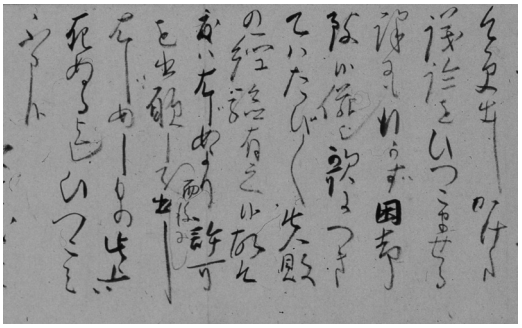
子規随筆原稿「病牀六尺（九十二）」（明治35年８月）

子規画「草花図」（明治35年４月13日、14日）



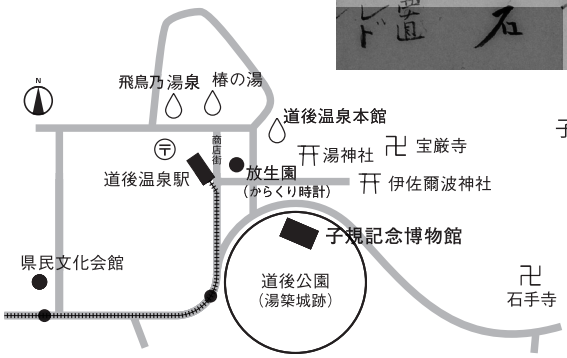
コンナ石コロヲコロガシテ置キタイ

子規の河東銓あて書簡（明治31年７月13日）



死ぬるまでひっこみ不申候

子規の夏目漱石あて書簡（明治31年３月28日）



改修工事のため11月22日までは当館駐車場は御利用いただけません。
道後温泉駅より徒歩約５分／道後公園駅より徒歩約５分
※公共の交通機関をなるべくご利用ください

松山市立子規記念博物館

〒790-0857 松山市道後公園 1-30 TEL. 089-931-5566 https://shiki-museum.com